

(別紙) 第4回市民会議グループ討議の概要

【A分科会前半 A-1：創エネ・エネルギーの地産地消】

グループ	概要
い	<ul style="list-style-type: none"> ・ 太陽光パネルと蓄電池をセットで考える必要がある。現状は必ずしもセット販売となっていないため、自分の家で発電しても電気をためておけず、自給自足になっていない場合が多い。売電による資本回収にも時間がかかってしまう。 ・ 太陽光パネルを 市役所、公共施設、市内企業、体育館の屋根等に設置する。公園の屋根に設置すれば暑さ対策にもなる。 ・ 日本では自分一人の行動では変わらないという意識が強いが、まずは行動を起こす。周りが変わればガラッと変わる可能性がある。
ろ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 太陽光発電を普及させる。その先では地域でマネジメントしていく発想が必要。 ・ 蓄電池は太陽光発電と切っても切り離せない。蓄電池の各戸配備やEVの蓄電池としての活用を進める。電気を送電網に流すための転換が大変なので、基本的には送らずに自分たちで使い、使い切れなければためておいて後で使えるとよい。 ・ 太陽光パネルを学校の体育館やプールの屋根に設置する。文化会館の建て替え時にも設置するなど、再エネの利用が市民に見える形になれば啓発効果がある。 ・ ペロブスカイト太陽電池（注・従来のシリコン太陽電池より低コストで生産でき、軽量とされる）の導入に期待する。自然光をうまく活用したい。
は	<ul style="list-style-type: none"> ・ 太陽光パネルの設置はおのずと進むと思われるが、地域で蓄電する施設がほしい。各家庭で発電した電気を蓄電池にためて販売できるなど、モチベーションとなる利益があるとよい。 ・ このシステムの施設をハブとして市民のアイデアを集める。地元企業と連携して蓄電池の技術開発を進める。日傘型の蓄電池などのエコアイテムを開発する。 ・ 本厚木駅前に太陽光パネルを載せたアーケードを作る。厚木ならではの施策で厚木の魅力を増やす。 ・ その他、ガードレール、車の屋根、窓ガラス等にも太陽光パネルを設置する
に	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「私たち厚木市民は、あらゆる所（屋根）にソーラーパネルをつけます」とのアクションプラン案とした。 ・ 太陽光発電には十分なポテンシャルがあり、できる準備もあるのに現在普及が進んでいないのは、圧倒的に「情報不足」が大きな原因ではないか。企業や行政が、費用（損はしないという情報）や、設置による効果（環境面含む）、地域別の明示など、数値で「分かりやすく」示すことで、情報不足による不安や抵抗感（安定供給ができるのかなど）を拭うことができる。現状ある施策の周知をスピード化するのも併せて必要。

【A 分科会後半 A-2：移動・まちづくり】

グループ	概要
い	<ul style="list-style-type: none"> ・ EV の普及に関し、充電設備の不足や車両のメンテナンスの難しさが課題。対策として、個人宅の充電施設のシェア、EV のカーシェアリングが考えられる。 ・ 交通量そのものを減らすことが重要。厚木市内の渋滞対策として、バスが渋滞する区域における自家用車の進入制限や、バス専用レーンの増加・延伸等が考えられる。全自動運転車の導入も有効ではないか。 ・ 自家用車からカーシェアリングへのシフトは賛否両論ある。（日常の）買い物など、使いたい時に使えるとよい。 ・ MaaS（特に食品販売などの運送）をより良く発展させる。一方で、将来を見据えてオンラインサービスそのものの普及・発展にも力を入れるべきではないか。
ろ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「厚木市民は 2050 年にマイカー自己所有ゼロを目指す」をアクションプラン案とする。車がなくても生活しやすい街、車で移動する必要がない街の実現のため、公共交通の充実、自転車の利用、カーシェアリング、MaaS の活用等を進める。 ・ 車を持たない人への優遇・恩恵がある世の中になれば、賛同者が増える。公共交通のサブスクリプション（定額制乗り放題）もメリットがある。 ・ 自転車が走行可能な道路のゾーニングを徹底し、特に子供の安全性を考慮する。 ・ バスのアクセスを良くし、経路をわかりやすくする。バスアクセスの良くない郊外の公園等に休日にシャトルバスの臨時運行などがあると、バスの利用促進（自家用車の利用抑制）につながる。 ・ EV のカーシェアや利用体験会があると市民の理解が深まる
は	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共交通機関や自転車の利用を進めることで車の利用を減らす ・ バス専用レーンの設置や一般車用の車線の削減により、自家用車の所有や利用を抑制する。都市部などで自家用車の乗り入れ禁止日を設け、認知を広げる。 ・ 自転車専用の広い道を設け、皆が安心して安全に走行できる環境を作る。既存の自転車に取り付けるだけで電動自転車になるようなモーターを開発してほしい。 ・ バスの利便性向上も必要だが、「バスが遅れるから自家用車に乗る」という認識・価値観・社会を変えるような、システムを丸ごと変える施策や工夫が必要 ・ 我慢するのではなく、うまみがあってワクワクする方策が行動変換に有効。マイルやポイントが貯まり、それが地域経済につながるなど、利用者が魅力や利益を感じられ、楽しみながら取り組める制度があるとよい。
に	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「私たち厚木市民は日産の EV を購入します」というアクションプラン案とする（注・日産自動車株式会社（本社：神奈川県横浜市）のテクニカルセンターが厚木市にある） ・ EV について情報不足で知らないのが現状の課題なので、メーカーには EV の利点をもっと細かく PR してほしい。行政も周知をバックアップしてほしい。（性能やメーカー比較、充電設備の費用や電気代、補助金情報等） ・ レンタカーや短時間の試乗よりも、1 週間程度の貸し出しプランで実体験したい。知ることが導入検討につながる。 ・ 公共交通として目的別の乗り合いバスができるとよい。病院、買い物、通勤等、要求に合わせた移動手段を色々提供してほしい。そこでも EV を活用してほしい。

【B 分科会前半 B-1：省エネ・住まい】

グループ	概要
ほ	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅の断熱性能や熱効率を高めるため、窓を減らした建築物を建てる。窓の代わりに外の景色が映るディスプレイや、低くても高く見える天井（またはディスプレイ）など工夫した建築とすることで、窓がなかったり狭かったりしても快適に暮らせる住環境をテクノロジーの力で作れるとよい。 ・太陽光パネルを取り付ける屋根の向きが重要だが、屋根以外の設置も考える必要がある ・二重窓（エコ窓）やガラス交換の普及のため認知度を高める。設置によってヒートショックの危険性を減らし、かつ省エネ効果を上げることもできるという認識を広げることが必要。樹脂サッシの耐久性、二重窓の鍵のかかりにくさ、リフォームのコストと手間等が課題。 ・賃貸に関して、エコな構造や仕組みの建物であることがわかるマップ作成を促す
へ	<ul style="list-style-type: none"> ・賃貸住宅の機能的な構造を替える際、賃貸住宅の住民（借主）が主体的に対策することは難しく、決定権のあるオーナー（貸主）に対してアピールする必要がある。一人ではなくまとまって意見を伝えることが有効。借主側は、勉強会や学校の環境教育や市民講座などで知識を得て理解を深めてアピールしていく。 ・賃貸物件で断熱性能を高めるとコストが家賃等に転嫁され、貸主側も借主側も避けたい心理が働く懸念があるため、オーナーに対しての助成金や基準を条例化して強制力を持たせる。また、二重窓などの省エネ設備のメーカーや推進団体は、建築業者やオーナーへも断熱性能の有効性をアピールする。 ・二重窓、断熱機能等、住宅のエネルギー消費量が可視化され比較ができるプラットフォームを導入する ・住宅やリフォーム費用の減額条件を明確化し、市民に対して具体的な金額の提示が必要。個人に調べることを任せるのではなく、段階的な金額プランなどの選択肢が示されるとよい。 ・経済を回すことを優先するのではなく、耐久性・持続性のある長く使える建築物を増やす
と	<ul style="list-style-type: none"> ・省エネ効率の高い住まいの構造（壁、屋根、窓）に替えることが効果的である。一方で、（実体験として）自費負担であることの課題や耐久性・安全性に関して信頼できる業者の選定に課題があるため、行政のチェック体制を整え、基準を設けることが必要。省エネ基準適合の可視化も必要。 ・住まいの省エネに繋がるエコ窓、内窓・外窓などの断熱性機能について、学生や子どもたちに向けて情報提供や教育の場が必要。学校にチラシを配布し、体験会や講演会を行い、SDGsを達成するための具体的な取組や効果を理解する機会とする。子育て世代には、騒音問題が解消されることも付加価値となる。 ・太陽光集熱器について、災害に備えて自然の力を活用して電力を自給自足できる仕組みが望ましい。植物を植えることもできることの一つ。 ・行政と共に、自然エネルギー活動、情報提供の場づくりを積極的に展開する。エコ窓の体験会（効果や価格、生活の変化について提示）を行う。

【B 分科会後半 B-2：消費・食・農・廃棄】

グループ	概要
ほ	<ul style="list-style-type: none"> ・（飲み物の）中身だけ販売する自販機や給水機が学校や公共施設などあちこち でき、自分でボトルを持って行って入れるのが一般的になるとよい ・各家庭でコンポストを使って生ごみを処理し、肥料として再利用する。また、自治会ごとに公共のごみ捨て場に生ごみ処理機があれば皆活用するのではないか。 ・プラスチックごみの削減のため、個包装をやめる。量り売りや、容器のデポジットサービスの仕組みを広める。 ・有機栽培・不耕起栽培の食物を買う。地産地消できる特産物（米、イチゴなど）をアピールする。 ・規格外の野菜を購入してフードロス削減を促す ・古着にブランド的付加価値をつける。新品より高いこともあるのが課題。 ・エシカル消費について、若者の意識を変えるには、若者文化とのコラボレーション、環境教育の推進を促す。環境に配慮した商品のコーナーを設ける。
へ	<ul style="list-style-type: none"> ・生ごみの堆肥化を義務化する。堆肥を販売できたり、農家へ提供して野菜を買う時に使えるクーポンと引き換えたりできるシステムがあるとよい。 ・食品トレイを回収のために持参するとポイントがもらえる、買い物時に容器を持参すると割引してもらえるといったシステムがあるとよい ・量り売りの促進のため、「売り場面積の20%を量り売りにする」といったフランスの事例を参考に厚木市の条例を作る ・有機作物の良さを栄養価の違いや環境への影響など具体的にアピールする。慣行栽培と有機栽培の違い、農薬、化学肥料、遺伝子組み換え作物について理解と周知が必要。安い物を買う習慣があることは意識の課題。 ・レシートを活用した自分の購入品を把握できる仕組みを導入する ・使い捨て商品とリユースできる商品について考えて購入できるようにする ・リサイクルショップが多いので「リサイクルシティ」¹を掲げる ・市民に対し、あゆチャンネルの番組を作成して周知することができる
と	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の制服やジャージのリユース・譲り合いを促進する。取組状況は学校によって異なるため、ルールを統一する。 ・素材のリサイクル、アップサイクルのためフリマアプリを活用する ・まず自分達で野菜やCO₂の吸収の多い植物を育ててみる。それをフックに、植物で景観をつくる（市の花・サツキで町おこし）、厚木ならではの特徴的な景色にするなど、厚木市の魅力をアピールする。 ・厚木市の土壌の特性を検証し、適した特産品の栽培や商品開発に力を入れる ・エシカル商品のコーナーの設置やエシカル商品の周知が必要。また、適量消費を意識し、物を買すぎないようにする。 ・リサイクル施設やごみ処理施設の見学の機会をつくる。ごみの分別についての知識を得る機会とする。

¹ なお、「リサイクル」とは一般に廃棄物等を再利用（再資源化）することである。ここでは、「リユース」（再使用）の意味も含めた言葉で表現されている。